

審 査 結 果 の 要 旨

論文題目 「Comparison of Acute Esophageal Necrosis and Severe Reflux Esophagitis」
(急性壊死性食道炎と重症逆流性食道炎の比較検討)

学位申請者 岡本 武士

本論文は、急性壊死性食道炎(AEN)の特徴として下部食道、全周性、内視鏡色調が挙げられるが、その位置付けが重症逆流性食道炎の病態の延長上なのか、それとも別の Entity として識別すべきか未だ病因病態が明らかにされていない。よって AEN の病態と臨床的特徴を詳らかにするために重症逆流性食道炎(ロサンゼルス分類 グレード C, D)の臨床的症例(内視鏡所見と臨床所見/経過)と比較し、両者の関連性や特性を明らかにした単施設で後ろ向きの研究論文である。

結果、急性壊死性食道炎症例は精神疾患との関連性や冬季発症(12月～2月)の多いことが特徴として明らかにされ、また1型糖尿病やショック状態を呈しやすい既報の仮説も再検証する結果も得られた。

今回の論文に際して、各審査委員から次のような質問がなされた

- 1) AEN は重症逆流性食道炎と区別される病態なのか、それとも一連のスペクトラムの疾患として捉えられるべきなのか？
- 2) AEN が下部食道に多い理由、また胃潰瘍でなく、十二指腸潰瘍を何故合併しやすいのか？
- 3) 急性壊死性食道炎の原因として微小循環障害を含む虚血や感染症など想定されるが成因として何を考えているか？
- 4) AEN は嘔吐やショックが多いが、嘔吐は AEN の誘因なのか、それとも結果として生じているのか？その関わり方に関して

これらの各委員の質問に対しても、自身の研究成果や経験、及び文献的考察も含めて自身の知識に基づきわかりやすく的確に回答しこの論文が AEN の病態生理を明らかにする価値ある論文であることが認識された。今後の急性壊死性食道炎の病態解明や治療法開発に有用な知見をもたらす内容と考えられる。

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。したがって、申請者 岡本 武士 は東海大学博士(医学)の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査	博士(医学)	田尻 琢磨	医学部教授	(医学研究科先端医科学専攻)
委員	博士(医学)	加川 建弘	医学部教授	(医学研究科先端医科学専攻)
委員	博士(医学)	鈴木 秀和	医学部教授	(医学研究科先端医科学専攻)
委員	博士(医学)	小柳 和夫	医学部教授	(医学研究科先端医科学専攻)
委員	博士(医学)	島田 英雄	医学部教授	(医学研究科先端医科学専攻)